

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第38号

発行:2015年3月5日

発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
〒739-0147 副住職 天野英昭
東広島市八本松西6丁目10番1号
☎・FAX 082-428-0160・082-428-1360

春季彼岸会並びに永代経法座

日時 3月23日(月)

ご講師 堀 隆史師(志和東 光源寺ご住職)

朝席 9時~11時頃

昼席 13時~15時頃



第42回歎異抄輪読会

日時 3月26日(木) 19:00~20:30頃

ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

仏教壮年会・仏教婦人会からのお知らせ

☆天龍寺仏教壮年会 月例会

3月31日(火) 19:00~20:30

☆天龍寺仏教婦人会総会

3月7日(土) 13:30~15:00

☆広島別院清掃奉仕

3月10日(火) 9:00~14:00



『温かい心』を感じたご縁でした。

先般、あるお葬儀のご縁をいただきました。亡くなられましたのは80歳を過ぎられた奥様でした。喪主の方は、その方のお孫さんでした。お通夜の席には、お孫さんであるお姉様と弟様のお二人の予定でした。しかし、弟様がお通夜の席に間に合う事が出来ず、お姉様お一人でした。

色々なご事情からこの様な形のお通夜となったと伺っておりましたが、最初にお会いしました時に「どちら来られましたか？」とお聞きしますと「東京都から来ました。」と答えられました。さらに「今弟が八本松に向かって来ていますから。」と言う言葉をいただき、「弟様はどこから来られますか？」とさらに言葉を付け加えますと「弟は長野から来ています。」と答えられました。

その言葉をお聞きし、私は驚きました。亡くなられた奥様は、今述べました姉・弟様にとっては祖母になられる方です。その為に、自分の事は後まわしにして東京・長野から急いで来られ、また来ようとしておられたのです。

初めてお会いした時から、お葬儀が終わるまでお二人のお姿がとても心に残りました。そのお二人の姿には、高飛車な言い方になりますが、私は「心」を感じさせていただきました。

特に記憶に残りましたのは、今から茶毘にふされるおばあさまに対して、涙を流されながらお二人は、お棺に入っておられるおばあさまに温かい眼差しを注がれ、その後しばらくの間じっと手をあわさっていました。そのお姿を見ておまして、亡きおばあさまに対して、心の中でお礼等を申されていると感じたことであります。また、一方でこのお二人のお姿を見て、おばあさまはお幸せな方だと感じさせていただいたと思います。

喪主のお姉さまは、通夜・葬儀等に参列された方が、少なかつた事に対して、少し心を痛めておられた所もありましたが、私に取りましては、本当に温かいお葬儀であったと感じさせていただいたと思います。ありがとうございました。

【^{せつな}刹那の覚悟】

この言葉は、先般ある新聞に記されておりました。広島カーブに復帰された黒田投手に対しての言葉です。マスコミ報道で、みなさまもよくご存じだと思いますが、黒田投手が、この度広島カーブに復帰するにあたり決断された理由の記事の中で「自分の野球人生もあまり長く無く、一球の重み考えた時に広島カーブで投げた方が、重みがあると思った。最後は広島カーブのユニフォームで。広島で最後の一球は投げたい。・・・等々旨」のお話をされていたことに対しての言葉ではなかったかと記憶しております。

この言葉を見ました時に、考えさせられました。私たちは「明日はどうなっているか分からない存在」だと知りながら、私は日常性の中に埋没して生きており、生死の苦海を様々な物に翻弄され、日々悩み・苦しみ等に出遭い、むなしく日々を過ごしていると思っております。

一方で、私たちは理想的な自分として「強く・賢く・良い人」になろうと心がけます。しかし、この厳しい現実を生きて行くと「強くなりきれない、弱い自分。賢くなりきれない、愚かな自分。良い人になりきれない、哀しい自分。」等に会い、この様な人間ではいけない等と苦悩しながら生きて行く存在だとも考える事があります。

刹那の覚悟とまではいきませんが、少し私なりにむなしく過ごしている毎日を意義あるものに出ればと思ひながら、今申しました様に、その事が出来ない自分の哀しさに気付かされることであります。

しかし、この様な存在であるが故に、甘えるわけではありませんが、阿弥陀様がいらっしゃるのだと思ひますに、ありがたさを感じるころでもあります。